

Salon

サロン



動物病院の経営で勤務医制度を確立

○これまでに20医院立ち上げ

空前のペットブームが押し寄せている中で、「動物のお医者さん」の存在がクローズアップされている。総務省の資料によると「動物病院」の数は約八千三百(二〇〇四年調査)。獣医師の免許を所有している人は約三万人

で、実際に医療に従事している医師は一万二千人ほどといわれる。

問題点も散見される。例えば、資金不足で容易に開業できない。臨床経験が乏しく高度な治療に対応できない。大志を抱き動物病院に勤務しても薄給のため途中で挫折してしまう。こうした点に疑問を抱き、もともと

《にしかわ・よしひこ》滋賀県出身。東京水産大卒業後、水産系商社に勤務。経営コンサルタントに転じ93年独立、00年ブイエスシー(VSC、東京都港区)設立。47歳。VSCは資本金5850万円。従業員(獣医師含む)80人。動物病院の開業支援とペットクリニックの経営が主力事業。

ブイエスシー

西川 芳彦社長(47)

経営コンサルタントを務めていた西川芳彦氏は、動物病院の開業支援やコンサルティンクを進める一方で、二〇〇〇年二月にブイエスシー(VSC)を設立、〇二年からは直営の「アテナ動物病院」の経営に乗り出した。「安定した雇用環境を整備、勤務医制度を確立したい」というのが狙い。言い換えれば、リスクの高い開業を避けるに、「勤務医を志向する人の受け皿をつくること」が病院経営に走らせたい動機だ。

「これまでに二十医院を立ち上げました。さらに今年度は十医院の開業を計画しています」と意気込む。立地は一部三県が中心となっているが、ほかに札幌、青森、宮城、愛知、三重、大阪、福岡など各地に広がっている。病院の数だけでなく、質の面の追求も怠りない。その象徴ともいえるべき存

在が、専門的で高度な診療にも対応する「センター病院構想」だ。第一弾として年度内に都内に設ける計画で、着々と準備を進めている。ヒトの診療と同様、日常はホームドクターに診てもらうが、「やはり専門医のいる病院が必要なのです」。

○高度な機器で難病にも備え

CT(コンピュータ断層撮影法) スキャンやMRI(核磁気共鳴診断装置)などの高度な医療機器を備え、腫瘍や骨の奇形など、難病にあたる考え。犬や猫も人間と同様、町医者だけでは済まない場合があるというのだ。西川社長が、こうした動物病院の経営に力を注ぐうえで配慮しているのが「獣医師や看護師ら女性が子育てと仕事を両立させることができる職場環境の整備」。産前産後の休暇手当、育児期間中のパート勤務などを実施する一方、託児所の整備などにも取り組んでいく意向だ。